

～ 都立高校推薦入試に向けて ～

今回は、約3ヶ月後に迫った都立高校推薦入試について、簡単な心構えと準備をまとめてみます。まず、令和3年度の都立推薦入試の出願日は来年1月21日、試験は26日～27日に行われます。

毎年1月の出願間近になって慌てる受験生がいますが、準備不足だととかくボロが出てしまいがちです。中学校によっては、推薦入試の備えや対策が遅かったりすることもありますので、まずは入試当日、その場しのぎの対応にならないように、しっかり心構えをしておきましょう。直前で付け焼刃の準備をしても、受験校の先生方にはごまかせません。推薦を受ける可能性のある生徒さんは、その心構えとともに、まずは自分のことをよく見つめ直しておくことが必要ですね。

・・・とはいっても具体的に何をしたらよいか分からない生徒さんも多いかと思えます。以下にはその志願理由書（自己推薦書）の書き方や自己PRの仕方についてお伝えしましょう。

◆志願理由書(自己推薦書)の書き方

【Ⅰ】何を書くか考え、箇条書きにする

まずは思いつくまま項目を書き出してみましょう。『なぜ志望したのか』『どこが気に入ったのか』など、選んだ理由が中心でokです。

【Ⅱ】中心にするものを決め、順番を考えてみる

いくつか箇条書きにしたら、それらを全て盛り込んだり同じ比重で書こうとしたりせず、何を『メイン』にし、何を『サブ』にするかを決めてみましょう。例えば『部活動』と『教育方針』の2つが思いついたとします。メインにするのは『教育方針』として、『部活動』はサブとして書いてみてください。志願理由書であれば「もっとも強調したい理由」を、自己PRであれば「一番自信のあること」を中心にするといいでしょう。たくさんある場合についても多くても3～4つ程度にしてみてください。

【Ⅲ】具体的に4段構成にしてみる

- ①メインとする事柄を最初に書く
- ②メインの事柄について具体的なエピソードにふれて書く
- ③サブとなる事柄を付け加えて書く
- ④文章の最後は前向きな姿勢で締めくくる

といった具合です。必ずしもこの形でなければならない理由はありませんが、基本形として覚えておくとよいと思います。

【Ⅳ】文章の量を調整し、完成させる

一通り考えがまとまり文章にできたら、志願理由書のコピーに書いてみてください。文章の量が多ければどこを残しどこを削るか、少なければもっと具体的にできるところはないか、などを考えて完成させてみましょう。

◆説得力のある志願理由・自己PRにする

【Ⅰ】できるだけ具体的

校風や教育理念を理由にするなら、そのどんな点に魅力を感じたのか、学校はどのような取り組みをしているのかを書いてみましょう。部活動や教科をがんばりたいのなら、教科名や部活名など具体的に上げるとよいと思います。説明会や文化祭でも、実際の説明された内容や「～祭」などの催し物の名前などです。

【Ⅱ】受験校の特徴を理解する

受験する学校の事もよく知らず思い込みだけで書いてはいけません。先輩から聞いたからだけでもあまり良くありません。しっかり自分の目で見聞きするのが大事です。学校ならではの特色はもちろん、「本校の期待する生徒の姿」もしっかり確認しておきましょう。

【Ⅲ】自分の言葉で表現する

他人から聞いたことをそのまま書いたりパンフレットに載っていることをそのまま書いたりするのもよくないことがあります。もちろん相応の言葉遣いは必要になりますが、芯になるのは本人の意志や熱意です。思ったこと感じたことはストレートに表現することも大切です。

【Ⅳ】高校生活とその未来に結びつける

志願理由は高校生活とその未来に結びつけて書いてみてください。中学校でやってきたことをしっかり書き、それに関連させて高校でやりたいことをはっきりアピールしてください。入学後のビジョンがない内容はインパクトも弱くなります。高校で何がしたいのか、将来何をしたいのかを前向きに書くことで印象もだいぶ変わってきます。

<注意点>

誤字脱字がないように意識してください。曖昧な漢字や意味の語句は辞書で調べましょう。そしてできるだけ漢字を使用すること。難しい漢字を無理に使うことはありませんが、中学校で習った漢字は使用するようになしてください。

最後に読み手を意識して書くこと。欄全体のバランスを考え、上下どちらかに偏ったり、途中で字の大きさが変わったりしないよう注意してください。字もできるだけいいに、かつはっきりと書くようにしましょう。

参考文献：高校入試 受かる！「面接」 学研出版